

5. 社会との連携

① 公開講座

センターでは、1986年度から毎年1回、市民向けの公開講座を開催している。テーマは、一般市民の関心などを考慮して選択されている。講師としては、センター教員のほか、他部局の教員、他大学の共同研究員、当該問題の専門家などが選ばれている。毎年のようにセンターの公開講座を受講している市民も多く、センターでは、毎年度アンケート調査を行って、公開講座の内容や運営の改善をはかっている。

1999年度

第14回公開講座「北方ユーラシアの開発と環境」

実施期間：1999年5月10日～5月31日 受講者数：63人 開催責任者：村上 隆

講義内容	講師
① シベリアの森林は壊れているか	北海道大学農学部 教授 高橋 邦秀
② 21世紀の北極海航路	北海道大学大学院工学研究科 客員教授 北川 弘光
③ 流氷の世界	北海道大学低温科学研究所 教授 青田 昌秋
④ 日口の渡り鳥とその保護	帯広畜産大学畜産学部 教授 藤巻 裕蔵
⑤ ロシア極東地域の経済開発	日口経済委員会 事務局長 杉本 侃
⑥ 北の海の哺乳類と共存するには	野生生物保護学会 会長 和田 一雄
⑦ サハリン大陸棚石油・ガスの開発と環境	北海道大学スラブ研究センター 教授 村上 隆

2000年度

第15回公開講座「新千年紀を迎えたユーラシア、体制転換10年」

実施期間：2000年5月8日～5月29日 受講者数：55人 開催責任者：皆川修吾

講義内容	講師
① エリツィン後のロシア政治	北海道大学スラブ研究センター 教授 皆川 修吾
② 負けそうに負けないクチマ：ウクライナ政治と1999年大統領選挙	北海道大学スラブ研究センター 教授 松里 公孝

5. 社会との連携

③ 第2次チェチェン戦争の行方：コーカサスにおける文明の衝突？	東北大学大学院国際文化研究科 教授 北川 誠一
④ ロシアは世界経済にどう組み込まれるのか	北海道大学スラブ研究センター 教授 田畑伸一郎
⑤ バルカンに砲声止む日は来るのか：コソヴォ空爆とクロアチアの政変	ユーゴ研究者 千田 善
⑥ 中国の大国化、ロシアの混迷の下で極東の安全保障はどうなる	山口県立大学国際文化学部 助教授 岩下 明裕
⑦ 「イスラーム原理主義」は中央アジアを席卷するか	北海道大学スラブ研究センター 助教授 宇山 智彦

2001年度

第16回公開講座「声なき者の復権：スラブ・ユーラシア圏における民族と歴史」

実施期間：2001年5月7日～5月28日 受講者数：62人 開催責任者：松里公孝

講義内容	講師
① 中央ユーラシアの「民族」問題と「民族史」の創造	北海道大学スラブ研究センター 助教授 宇山 智彦
② 静かな反乱？受洗タタール人の棄教	静岡県立大学国際関係学部 助教授 西山 克典
③ ロシア帝国西部諸県のポーランド人	北海道大学スラブ研究センター 教授 松里 公孝
④ 極東ロシアにおける日本人社会	新潟大学人文学部 助教授 サヴェリエフ、イーゴリ
⑤ つくられた歴史と「民族」：マケドニアをめぐる	東京都立大学人文学部 助手 佐原 徹哉
⑥ 新たな民族の誕生：スロヴァキアのルシーン人の場合	早稲田大学政治経済学部 教授 長與 進
⑦ 極小民族の「声」：サハリン・ウイлтаの場合	北海道大学スラブ研究センター 教授 井上 紘一

2002年度

第17回公開講座「米国同時多発テロ後のユーラシア：国際関係とイスラーム」

実施期間：2002年5月13日～6月3日 受講者数：57人 開催責任者：宇山智彦

講義内容	講師
① テロリズムの権力政治	北海道大学大学院法学研究科 教授 中村 研一
② 「テロとの戦い」は中央アジアに何をもたらしたか	日本貿易振興会アジア経済研究所 研究員 岡 奈津子
③ 「イスラーム原理主義」と「聖戦」の論理	東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 助教授 飯塚 正人
④ ロシアにとっての同時多発テロ	秋田大学教育文化学部 教授 中村 裕

5. 社会との連携

⑤ 「ならず者」から「悪の枢軸」へ：イランの視角から	北海道大学大学院文学研究科 助教授 森本 一夫
⑥ 反テロ同盟と中ロ関係	北海道大学スラブ研究センター 助教授 岩下 明裕
⑦ ターリバーン後のアフガニスタンとパキスタン	大阪外国語大学外国語学部 助教授 山根 聡

2003 年度

第 18 回公開講座「サンクト・ペテルブルグ 300 年の歴史と文化」

実施期間：2003 年 5 月 12 日～6 月 2 日 受講者数：60 人 開催責任者：原暉之

講 義 内 容	講 師
① サンクト・ペテルブルクの誕生	北海道大学大学院文学研究科 教 授 栗生沢猛夫
② 幻想都市の文学：過去と現在	北海道大学スラブ研究センター 教 授 望月 哲男
③ 科学研究都市としてのサンクト・ペテルブルグ：帝政期を中心に	東京工業大学社会理工学研究科 助教授 梶 雅範
④ 劇的空間としてのサンクト・ペテルブルク：目で見える都市散策	神戸大学国際文化学部 助教授 楯岡 求美
⑤ 石と水の詩：聖都の 20 世紀詩人たち	稚内北星学園大学情報メディア学部 教 授 鈴木 正美
⑥ 英雄都市レニングラード：900 日の攻防戦とその後	北海道大学スラブ研究センター 教 授 原 暉之
⑦ サンクト・ペテルブルグと日本の文化交流	ピアニスト 土肥 睦子

2004 年度

第 19 回公開講座「ロシアを見た日本人・日本を見たロシア人」

実施期間：2004 年 5 月 10 日～5 月 31 日 受講者数：36 人 開催責任者：荒井信雄

講 義 内 容	講 師
① 国家のはざまに生きた人々：北東アジア近現代史への一つの視点	北海道大学スラブ研究センター 教 授 原 暉之
② 日本からロシアへ：漂着民ゴンザとロシアの日本学	鹿児島工業高等専門学校 講 師 上村 忠昌
③ 根室から見える日ロ関係史：ラクスマン、ゴロヴニン、リコルド、高田屋嘉兵衛	根室市教育委員会 学芸員 川上 淳
④ オハ捕虜収容所：北樺太の日本人抑留者	釧路公立大学経済学部 教 授 松井 憲明 樺太関係首長・議員協議会 事務局長 西村 巖

5. 社会との連携

⑤ 戦時下の日露漁業：「国策」を担った漁船員たち	北海道大学水産学部 名誉教授 鈴木 旭
⑥ 小野アンナの生涯：ペテルグラード、東京、スフミ	北海道大学大学院地球環境科学研究科 教授 小野 有五
⑦ 「越境者」が教えてくれたこと：ソ連に残った日本人とコリアン	北海道大学スラブ研究センター 教授 荒井 信雄

2005 年度

第 20 回公開講座「ユーラシアの国境問題を考える」

実施期間：2005 年 5 月 9 日～5 月 30 日 受講者数：122 人 開催責任者：岩下明裕

講 義 題 目	講 師
① 日本の外で「固有の領土」論は説得力を持つのか：欧州戦後史の中で考える	北海道大学スラブ研究センター 教授 林 忠行
② 国境と民族：コーカサスの歴史から考える	北海道大学スラブ研究センター 講師 前田 弘毅
③ 旧ソ連中央アジアの国境：20 世紀の歴史と現在	国立民族学博物館地域研究企画交流センター 助教授 帯谷 知可
④ カシミールと印パ・中印国境問題	広島大学大学院社会科学部 教授 吉田 修
⑤ 竹島問題と日本の課題	拓殖大学国際関係学部 教授 下條 正男
⑥ 中国と日本・ASEAN 間の国境問題：波立つ東シナ海と平穏な南シナ海	東京大学大学院総合文化研究科 教授 石井 明
⑦ 中口国境問題はいかに解決されたのか？：「北方領土」への教訓	北海道大学スラブ研究センター 教授 岩下 明裕